

『淫呪シスター ~おちんぽ中毒 膣奥で神様ごめんなさい~』

■プロローグ

…迷える子羊よ。ようこそ、懺悔室へ。

さあ、そちらの椅子におかけになって、あなたの胸の内をお話しください。

ここで打ち明けた内容は、決して口外いたしません。

どのような悩みも、罪も、主はその慈悲深いお心により、全てを受け入れてくださいます。

さあ、神に懺悔を……。

……はい。……はい。そうでしたか…。

あなたのお悩み、よく聞かせてくださいました。

確かに、お仕事に怠惰であったり、村の行事を蔑ろにしてしまうというのは、罪の意識を感じてしまうのも仕方ありません。

ですが、人は誰しもそういった、弱い心を持っているものです。

それに、無理をしきりでもお身体に障りますし…。きちんと健康に気を付け、周りと相談した上でお休みになるのなら、神はお許しに……。

えっと、別の理由があるのですか？

……いえ、遠慮なさらないでください。

もちろん無理にとは言いませんが、せっかくここまで来られたのですから、胸の内にわだかまりを残したままでは、すっきりできないかと…。

……そ、そんなに、話しづらい内容なんですか…？

……その、この場で言うことではないのかもしれませんけど…。

立場は違えど、私たちは、幼馴染の間柄なんですから。気にする必要なんてないんですよ？

……え？ 他のシスターは、今はいませんけど……。私では、そんなに頼りないでどうか…。

……でしたら、懺悔をお願いします……。あなたの、お力になりたいんです……っ。

……はい。……はい。……ん？ ……えっ、あ、う…

……ええっ、そ、そんなにたくさん…っ、うあ、うう……。

な、なるほど……。

この神聖な場所では、話しづらい内容だったかもしれませんね。

特に、幼馴染相手だと、余計に……。

で、ですがまさか、仕事に身が入らない原因が色欲のせいだったなんて…。
一日に何度も、え、えっと…じ、自慰行為をしてしまっていては、確かに仕事が渉りませんよね…。

た、ただ、勇気を出して告白してくださってありがとうございます。
私は、禁欲を架せられた身…あなたの行為を認めることはできませんが、その素直な心は、
神に届いているかと。
……はい、ご安心ください。今日の懺悔は、改心への第一歩です…。
心を清く、穏やかに保つことができれば…その、性的な欲望も、きっと抑え込めるはず…。
きっと、あなたなら大丈夫だと信じています。

……あ、あの。本当はこういうことしちゃ、ダメなんですけど…。少しお耳を近づけていた
だけですか？

……ん、ありがとうございます。

その…今回のような懺悔は、私以外のシスターにはしない方がいいのかなと…。
私は昔からあなたのことを使っていましたから、いいですけど…他のシスターに話したら、
色欲魔として即刻摘み出されてしまうかもしれません…。

わ、私は、大丈夫ですっ…。
ほら、あなたが性欲に負けて襲いかかってくるような人じゃないって、知っていますから
…そう、ですよね？
ふふっ…もちろん、疑ってなどいませんよ？

では、今日の懺悔は以上でしょうか…？
……分かりました。どうか、良い方向に向かうことを祈っております。
……それで、その…もしも時間があれば、最後に少しだけお聞きたいことがあります
…。
もう一度、お耳をお借りしても…宜しいでしょうか？

……ん。
……で、では、そのう…。

さっきも言っていたように、だ、男性はそんな、い、一日に何回も発情してしまうもの、な
ので…？
え、えっと、私は経験がないのでわからなくて、あなた以外の男性もそうなってしまうの

かと気になってしまって…。

……あ、ああ…そそ、そうなんですね。

さすがに、男性全員があなたのようになってしまっては、大変ですものね…。

ち、ちなみに、発情してしまったときは具体的に、どんな風になってしまうんでしょう…？

……な、なるほど…それは、大変そうですね。

私はそんな、身体が熱くなって、は、破廉恥なことしか考えられなくなるような経験はないので…。

あ、あの、今のお話で、ちょっと聞き慣れない単語があったんですが…ぼっ…勃起？ と
いうのは、どういった状態なんですか…？

え、ええっ？ は、初めて聞きました。男性の恥部が、そんな風になてしまうなんて…そ、
それからは…

……あ、えと、興味とかではなくて…っ、これはあくまで単なる知識欲求といいいますか
…っ

あっ…。す、すみませんっ、色々と…。

そろそろお祈りの時間なので、今日はもう失礼しますねっ…

また何か、懺悔したいことがあれば、いつでもいらしてください。

そ、それではっ…！

■トラック1

んあっあっああっ、はあはあ…あ、あの…誰か、居るのですか？

やっ、んっ、あっああっ…。

そこの、本棚の陰に隠れているんですよね…？ あっ、んっ…そんなところで覗いていない
で、出てきてもいいんですよ…？

んくっ、あっああっ…♪

や、やっぱり、あなただったんですね…♪ あ、んっ…ああ。

村の者に言われて、わざわざ探しに来たんですか…？ はあ、ああ…こんな、修道院の地下
図書室まで…んう、はあ…。灯台下暗し、ですねえ。

ん、んう、ああ…何って、見ての通り、自慰行為をしているんですう…ふあっ、ああっ…。

ね、ねえ、これ、本当にすごいんですよ…？

こうやって、おまたの割れ目…おまんこを、指でくちゅくちゅってかき回すと…。

あっあっあああっ、き、気持ちいいっ…。

身体の奥が熱くなって、頭の中が真っ白になるくらい、感じちゃうんですっ…んあっああっ、あっ、んんっ…！

はあはあ…んっああっ、私、初めて知りました…オナニーって、とっても気持ちいいものだったんですねっ…。

ああ、こんなに素晴らしい行為を知らなかっただなんて、あっ、ああっ…も、もったいないことをしてしまいました…。

…ん、んあ、ああ…ふふ。なにをそんなに、うろたえているんですか？

シスターである私が、こんな淫らなことをしているのが、不思議でたまらないみたいですね…。

や、やめませんよ…？ こんな気持ちいい行為、途中でやめられるわけないじゃないですかっ…んっ、ああっ、んんっ！

そ、それより、神に仕える身でありながら、ひどく乱れてる私のこと、もっと見てくださいっ…。

ん、んう、んあ、あんっ、はあ、ああ…この、淫らな音もお…んんっ

んあっ、あっ、ああっ…し、シスターなのに、淫らに自慰に耽って…ああ、こんな私、どう思いますか…？

い、今さら、きれい事を言っても無駄ですよ…？

さっき、物陰からこっそり見てましたよね？ 私のこと…。

ちゃんとわかっていますよ…？ あなたは性欲が強くて、一日に何回もオナニーをしてしまうんですから。

本当は、おまんこを弄ってる私のこと、見たくて仕方ないんですよね…？

……ふ、ふふっ、やっと認めましたね…？

ほら、もっと近くで見てください…

や、んんっ…鼻息、荒くなっていますね…？

ど、どうしてでしょう…あなたが興奮してくれて、私も、う、嬉しいです…や、んんっ…。

で、でも…こんな痴態を見られて、また身体がうずいてしまうなんて…もう完全に、シスター失格ですね…やっ、ああ…！

はあはあ…んっああっ、ああっ、んっ…！

は、鼻息が、当たって…んっああっ、や、ああ…！

わかりますか？ 私の匂い…メスの匂い…。

も、もう、釘付けですね…？

私の痴態、気に入ってくれましたか…？ んっ、ああ…。

じ、じゃあ…今、ぼ、勃起していますよね…？

勃起している所、手で隠さないで、私に見せてくれませんか…？

…あっああっ、すごいっ…！

こ、これ…痛くはないですか…？

はあ、はあ…そ、そうなんですね…。

確かに、ズボンが破けそうなくらい、股間が膨らんで…かなり苦しそうに見えます…

んっ、はあ、はあ…これが、男性の勃起…ズボン下では、男性器がどうなっているのか…想像するだけで、おまんこがうずいてしまいますっ…！

本当のセックスでは、この男性器が私のおまんこに入ってきて…犯されてしまうんですね…♪

そう考えるだけで…ひあっ、ああああっ！

ゾクゾクしてっ…指、勝手に動いてっ…！

はあ、はあ…い、いいですよっ…そのまま、見ていてくださいっ…

勃起チンポに興奮しながら、オナニーするところっ…！

んっ、はあはあっ…！ ひうっ、んっ、ああっ！

も、もうっ、だめえっ…！ おまんこの奥、ぐちゅぐちゅってかき回すの、気持ち良すぎますうっ…！

ひあっ、ああっ、んっ！

お、おまんこきゅんきゅんしてっ…あっ、ああっ、な、何か、来てしまいそうですっ…！

あんっんっ…！ やっああっ、あっああっ…！

い、イクイクッ…！ い、イキそうっ…！ やっああっ…！

み…見て、くださいっ…！ シスターなのに、オナニーして…エッチな処女おまんこイクところ、み、見ててえええっ…！

んっ…！ あっあああっ！ あんっ、んっ、あああああっ…！

こ、これ、しゅごいいいっ…！ 指、奥まで入れてイクの、気持ち良いい…♪

んっ…あっあああっ…ひあっ、あんっ、んっ、あああっ…♪

おまんこ、感じすぎて…ど、どうにかなってしまいそう…です…♪

はあ、はあ…やっ、あああっ…こ、これ、すごいっ…おまんこから、淫らなおつゆがあふれてきてるの…み、見えますよね？

これ…あなたに見られながらイッたから…こんな風になってしまったんですよ…？

一人で絶頂した時よりも、ずっと気持ち良かったから…だからこれは、あなたのせい、なんです…ふふっ♪

ん……どうしましたか？ 急に改まって…。

ああ…私が、あんなことをしていたのが、不思議でたまらないみたいですね…？

確かに、私は神に仕える身…自らを律し、純潔を守らなければなりません。ですが…

…知っていますか？

シスターだって、性欲は溜まるものなんですよ…？

私も、女ですから…。我慢にも限界はあるんです…はあ、はあ

ええ、私もあなたと同じ…本能的な欲求は、どうしても消せません。ただ今までには、それをどう発散すれば良いかわからなかっただけで…

…それを教えてくれたのが、この淫呪の書です。

これは、歴代のシスターたちの行き場のない性欲が込められた、呪いの書…。

この書に触れたものは呪われてしまい、心の奥底に眠っている欲望をむき出しにしてくれるのです…。

その証拠に…ほら、普段と目の色が赤く変わっていますよね…？

いえ…呪われているといっても、淫呪の書に操られているわけではありません。

これはただ、見て見ぬ振りをしていた欲望を膨らませ、呼び起こしてくれただけ…。

ですから…むしろ、この姿はある意味、私の本性とも言えるものなのです…。

…失望しましたか？

シスターなのに、心の奥ではドロドロとした欲望を隠し持っていたなんて…。

ん、ああ…ふふっ、優しいんですね…。こんな、普段からは考えられないようなこんな痴態を見せつけられても、まだ私のことを肯定してくれるだなんて…。

やっぱり、あなたを選んでよかった…。

呪いを解く方法は、私もわかりません…淫呪の書にも、それは書いていませんでした…。

ですが、淫呪の書は眠っていた欲望を解放させる書物…。

つまり、溢れる欲望に従って行動すれば、最終的には呪いを解くことができるのではないかと思うのです。

そう…今まで禁止されていた、エッチ（淫ら）なことをすれば…解除できるかもしれません…。だから、いいですよね？

他に方法が浮かばない以上、こうするしかないかと…。

…そして、呪いを解くためにはあなたの協力が必要です…

お願いします、手伝っていただけませんか…？

あ…残念ながら、呪いを解除するまで、ここから出られませんよ…。そういう魔法が、この部屋にかかっていて…。

…はい、それも淫呪の書の魔法によるものです。

ですから、ここでただじっとしていても、助けが来ることもありませんし、何の解決にもならないのです。

…ふふつ。ええ、そうです。

最初から、選択肢なんてなかったんですよ…？

…でも、実際のところ、あなたも期待していますよね…？

おちんちん、こんなに勃起させて…口では格好いいことを言っておきながら、本当はエッチしたくてたまらない…。そうでしょう？

…ふふ。別に、何か特別なことをする必要はありません…。

あなたはただ、私身を委ねてくれていれば、それでいいんです。

ふふつ…動けませんか？

この魔法、すごいですよね？ これも、淫呪の書によって得られた力…。

ああ、素直に従ってもらえば、こんなことをしなくて済んだのに…。

あなたは性欲だけは人一倍強い癖に、変なところで正義漢ぶろうとするから…。こうするしかありませんでした。

…でも、内心、こうなってよかったと思ってるんじゃないですか？

拘束されれば、私に襲われたって言い訳できますものね…？
もう、長い付き合いです…あなたが私を犯す勇気がないのは、ちゃんと知っていますよ…
心配しなくとも、大丈夫です…
これから私の手で、あなたのやらしいところ、いっぱい気持ち良くしてあげますから…♪
お互い、溜め込んだ欲望を、思いっきり解放させていきましょうねえ…♪

■トラック2 淫呪の書、催淫の章

それでは…まず、私を好きになってもらいましょうか。
……あら…不思議そうな顔をしていますね。

好きでもない相手と、淫らな行為をするなんて…それこそ神に背く行為だとは思いませんか…？

ですから、あなたには私のことを好きになってもらいます。
ふふっ…方法なんて、簡単ですよ？

まずはこうして…真っ直ぐ、お互いに見つめ合うのです…。
そう、目をそらしてはいけませんよ…？

ふふっ…顔、赤くなってきましたね。
…恥ずかしい、ですか？ …私もです。

んっ、ああ…こうして見つめ合っていると…
ああ、すごく胸がドキドキします…男性とこんなに至近距離で見つめ合うなんて、生まれて初めてだから、でしょうか…。

心臓がどくんどくんって高鳴って、うるさいくらい…。
あなたにも聞こえてしまうんじゃないかと思うと、んっ、はあ、はあ…ほら、呼吸が荒くなっているの、わかりますよね…？

ん…ええ、もちろん、ただ見つめ合っているだけでは終わりませんよ？

こ、ここからは……き、キスをするのです…。

……恋人同士になるなら、キスくらい当然ではありませんか…。
も、もちろん私も初めてですし、教えに背いてしまう怖さもありますが…でもそれ以上に、
あなたとキスをしたいのです…。
いけないとわかっていても、この気持ちは抑えられませんっ…。

んっ…ちゅ、ちゅ、ちゅうっ…ん、ちゅう、んんっ…。
ん、ふふっ…初めてのキス、あなたとしました…♪
これで、私の純潔はあなたのもの…ですね…♪

ん、ちゅ、ちゅ、ちゅう…んちゅ、ちゅ、ちゅふ…ん、ああ…

んあ、ああ…これが、キス…。
唇同士が触れ合っただけなのに、身体中が熱くなってしま…もっとしたくなってしまいます…
んっ、はあ、はあ…さあ、もう一度…キスをしましょう…？

んっ…ふふっ、今さらやめたところで、どうしようもありませんよ？
今度はもっと、激しいキスをしてみませんか…？
今よりも、より背徳的なキスを…♪

さあ、口を開いて…舌を出してくらはい…♪
んあ…ん、ちゅう、んん、れるっ、れるう…ん、んじゅっんじゅっ、れるっ、れろっ、れ
ろお…♪

はあ、はあ…あ、んん…♪
こ、これは、いけませんね…止まらなくなってしまいそうです…れるう…んちゅ、ちゅふ、
れろお…んあ、ああ、はあ、はあ…。
口の中で舌を絡ませるの、すごく気持ち良くて…あ、んんっ…もっと、したくなってしま
いますっ…♪

ちゅぱあ、はあ、はあ…ん、ああ…。
べろちゅー、気持ちいいですね…？
いっぱい感じてくださって…私も嬉しいです♪

……ん、ああ…もちろん、初めてですよ…？

れるう、んっ、んちゅうう…なのに、こんな淫らなキスができるのは…れるれるう、淫呪

の書のおかげです…♪

ちゅ、れるっ、れるお…書の力によって、どうすれば男性を感じさせられるのかが、なんとなくわかってしまうのです…んちゅ、ちゅうう
れるれるう、れるちゅうう、ちゅぱあ…

キス以外にも、例えばこんな方法も…♪

ん、はあ、はあ…。

こんな風に、耳元でささやかれると…ゾクゾクしてしまいますよね…？

ここからはあ…♪

もっと身体を密着させて、私の声を、もっと近くで聞かせて差し上げます…♪

はあ、はあ…あ、ん…はあ、はあ、んん…

耳、敏感になってるんですね…？

こんな、わかりやすく反応するなんて…♪

ああ、ん…はあ、はあ…

少し囁いただけなのに…感じてしまっているのですか…？

さすがは、毎日何度もオナニーをしてしまうような変態さんです…♪

いつも私の淫らな姿を想像して……しているんですか？

はあ、はあ…あ、んん…でしたら次は…こういうのはいかがでしょう？

んあ…ああ、れる、れるう…んあ、ああ…ちゅ、れるお…。

……耳、舐められて…感じていますね？

んちゅ、ちゅ、れるう…ああ、んん…。

耳、舐められるの…ちゅ、んん、ちゅぶ、好きなんですか…？

……なんて、そんなこと、聞くまでもなさそうですね♪

れる、れるお…気持ちよさそうにしてくれて、私も嬉しいです…♪

んああ、れるっ、ん、ちゅう…ちゅ、ちゅうう、れる、んん…。

でも、これはまだ序の口…。

こんな耳の表面だけじゃなくて、奥まで舐めたら…もっと気持ち良くなれますよ…♪

あむ。

んちゅ。

……いいですよ…お気に召したなら、いくらでも、耳を舐めて差し上げます…んあ、ああ…。

あむ。

んはあ。

はあ、はあ…ああ、んっ…。

すっかり、顔が蕩けてしまっていますね…♪

……あら？ そろそろ、催淫効果が出ていてもおかしくないのですが…。

まあ、いいでしょ…効いていないのなら、効果が出るまで続けるだけのこと…♪

ん、ああ…気持ちいいですか…？

んっ、あ、ああ…れるっ、ちゅ、んん…。

……ふふっ、反対側の耳ばかり舐めてたから、早くこっちも舐めて欲しかったんですよね…？

言わなくても、ちゃんと分かりますよ…？

はむ。

んちゅ。

ん、あああっ…そんなに、気持ちいいんですか…？

んん、れるっ、れるっ、れろお…。

耳だけで、声を出して感じてくれるなんて…私も、ゾクゾクしてしまいますっ…♪

あむ。

んちゅ。

はあ、はあ…んあ、ああ…

気持ちいい…気持ちいい…ですよね？

れる、ん、れるっ、れろお…ちゅうっ…耳穴、ヌルヌルのやらしいベロで犯されて…感じてしまっているのですよね…？

れるっ、ん、あああ…れるお…そんなに喜んでくれたら、止まれなくなってしまうではありますか…♪

あむ。

んはあ。

あ、んん…はあ、はあ、はあ…ちゅ、んちゅ、れるう…♪

……お、おちんちん…反応してますね…？

ちゅふ…ん、ちゅうっ、ちゅば、れるっ、れるう…。

ビクビク震えてるの…ズボンの上からでも伝わってきます…♪

ん、れるっ、れるう、んん…し、しかも…いつの間に、先っぽが染みまで作って…これは、
どういうことなんでしょう…？

……んっ、はい…はあはあ、んんっ…。

へえ…これが、カウパーというもの、なのですね…♪

淫呪の書にも書いてありましたか…実際に触ってみると、少しヌルヌルして…んあ、あ、あ
あ…匂いも濃厚で、頭がクラクラしてしまいます…っ。

あ、あの…ズボンの中、見せてもらってもいいですか…？

……当然、それが禁忌に触れるることはわかっていますが…どうしても、あなたの…お、お
ちんちんを見たくて…… 止めても無駄ですよ？

ん…あ…あ、ああっ…！

んっ…んんっ…え、う、嘘っ…！？

こ…こんなに、大きいものが隠れていたなんて…っ。

も…もっと、近くで見させてもらいますね…っ。

はあ、はあ、んっ…ごくっ…はあ、はあ…。

こ、これが…本物のおちんちん…っ！

んっ…あ、ああっ…どうしてでしょう…っ。

まるで、悪魔のような形をしているというのに…目が離せなくなってしまいます…っ。

すんっ、すんっ…あああ…匂いも濃くて、頭が痺れてしまいそう…っ。

んあっ、あ、ああっ…はあ、はあ…。

ず、ずるいですっ…こんなものを見せつけられたら…はあ、はあ…唯一残っていた理性も、
吹き飛んでしまうじゃありませんか…っ。

はあ、はあ…ご、ごめんなさい…。私、自分を律することができなくて…。
あなたのおちんちん、どうすれば感じさせられるのか、教えて貰えませんか…？
はあ、はあ…先っぽ…
この、ぱっくりと膨らんだところですね
あ…それとも…きゅんって上がってる玉がよかったです…？

……あ、ああ…っ、そんな、卑猥なことを…あ、んっ…わ、わかりました…。

で…では、早速…やってみますね…？
こうやって、下から、擦り上げればいいんですよね…？

シコ、シコ…ああ、ん、はあ…シコ、シコ…。
シコ、シコ…はあ、はあ、んんっ…シコ、シコ…。
はあ、はあ…ん、はあ、はあ、ああ…♪

……や、あ、んんっ、触られるの、気持ちいいんですね
お、おちんちん、ビクって跳ねてますよ…っ？

はあ、はあ…シコ、シコ…あ、んんっ、先っぽのお口から、エッチなおつゆが溢れてきて…
おちんちんって、こんなにわかりやすく反応するのですね…♪
たくさん感じてくれて…すごく嬉しいです…♪

でも…耳も一緒に舐められたほうが…もっと、気持ちよくなれそうだと思いませんか…？

……ふふっ、すぐに出てしまいそうなら、その方が好都合です♪
だって今日は、何回も射精していただく予定なのですから…♪

ん、ああ…獣のような性欲を持つあなたなら、そのくらい問題ありませんよね…？
んああ…れる、れろお…ああ、ん…シコ、シコ…シコ、シコ…。
ああむ、ああ…れるっ、れるうっ、んああ、あ、んんっ…。
シコ、シコ…シコ、シコ…んん、はあ、はあ…つ。

……思った通り、たっぷり感じてくれていますね♪
あなたのおちんちん、手の中激しく暴れて…ふふ、快樂に溺れているのがよく伝わって
きます…♪

あむ。
んちゅ。

れるっ、んっ…んあ、ああ…♪
あ、熱いっ…♪ はあ、はあ…ちゅ、れるっ、んちゅ、れるうっ…♪
おちんちんって、こんなに熱くなるものなんですね…しかも、硬さもどんどん増してきて…っ、すごくエッチです…っ。

あむ。
んちゅ。

んっ、はあ、はあ、はあ…。
……そんなこと言われても、やめませんよ…？
んあああ…れるっ、んっ、ちゅうっ、れろお…。
せっかく気持ち良くなってるのに、もったいないと思いませんか…？
んっ、あ、はあ、はあ…どうせならこのまま、射精するところを私に見せてください…♪

あむ。
んちゅ。

あ、ああっ…あ、んんっ…もう、限界のようですね。
……はあ、はあ、はあ…いいですよ…私の手で、精液、出してください…っ。

……んっ、んんっ！
んあ、あ、ああ…すごい…びゅうううってえ…はあ…はあ…。
はあ…はあ…はあ…。

……こ、これが、射精、なのですね…お、驚きました…まさか、こんなに勢いよく出るなんて…。

はあ、はあ…あ、んんっ…そ、そして、これが本物の精液…っ。

あ、ああ…んんっ…想像よりもドロドロしていて…すん、すんっ…カウパー以上に濃厚で…不思議な匂いですが…嫌いでは…んっ、はあ、はあ…。

あ、味は…れろおれるっ…んちゅ、くちゅ、ん、んんっ…こくっ…。

んっ、あ、ふああ…っ、か、身体が、熱いっ…。
少し舐めただけなのに、魔力が高まっていくのを感じます…っ。
はあ、はあ、あ、ん、んんっ…はあ、はあ…っ。
……だ、大丈夫、です…。
で、ですが…強い魔力のせいか…ま、また…淫らな欲求が、膨らんできちゃいました…っ。

このまま、最後まで付き合ってもらいますよ…
私の性欲が満たされるまで……ふふ

■トラック3 淫呪の書、愛欲の章

はあ…はあ…あ、んっ…。
ど、どうでしょう…？
もう、催淫効果が出てきたんじゃないですか…？

……んっ…強情ですね…。
これでもまだ、効いてないと言い張るなんて…。

でも…本当は、したくて、たまらなくなってるんじゃありませんか…？
なのに…効いてないと言い張っているのなら…次の行為に移っても問題なさそうですねえ
…♪

……あら、そんなの、セックスに決まってるじゃありませんか…♪
男性を催淫した後は、欲望に従って快楽を貪るべし…と、淫呪の書に書いていましたから
…♪
…けれど、それ以上に…あなたと繋がりたいと思ってしまっているのです。
……あなたがどう言おうと、私は止められませんよ？

さて、すぐにでもセックスを始めたいところですが…あなたのちんちんは、準備ができていないようですね…。
さっき、あれだけの量を出されていたので…無理ありません

なので…これから、私が魔力を分け与えてあげますね…♪
全身にキスをしていけば、おちんちんもすぐに元気になるかと…♪

ん…ちゅ、ちゅうっ…ちゅ、ちゅう、ん、ちゅう…ちゅ、ちゅ、ちゅっ…。

……ふふっ、こそばゆいですか？

大丈夫…すぐに気持ちよくなりますよ…♪

ちゅう、ちゅぱあ……はあ、ふう…。

おちんちん、徐々に昂ぶってきたみたいですね…？

魔力が全身に行き渡ってきた証拠かと…♪

…ただ、まだ少し硬さが足りないようですね。

んっ、はあ、はあ…こういう時は…確かに、フェラチオが有効だと書いていたような…。

お口でモノを咥えるなんて…かなり大胆な行為ではあります、勃起させるためですから…仕方ありませんよねえ

ん、ちゅ、ちゅ、ちゅう…んちゅ、ちゅ、んん…。

……ん、ふふっ、早速反応していますね…？

ちゅ、んちゅ、ちゅう…ちゅ、ちゅう…やはり、並の性欲ではありません…♪

ちゅ、ちゅう…ん、ちゅっ…ちゅぱあ。

ああ…それにしても…こうしておちんちんに口づけするとお…ちゅう、ちゅ、ちゅぱあ…匂いを直接感じられて…おまんこ、濡れています…っ。

んっ、ああ…。もっと、あなたのおちんちんを、味わいたくなってしまいました…。

はあ、はあ…んっ、んくっ…これは、勃起させるために必要なこと…ちゅ、んちゅ…ああ神よ、はしたないこの私を、お許しください…っ。

ん…あ、ああ…れるっ、ん、ちゅ、れるっ、れろお…んあ、れる、んっ…れろっ、れろお…ちゅう、ちゅぱあ…。

んあ…はあ、はあ…これが、おちんちんの味、なのですね…っ、んちゅ、れるっ、れろお…んあ、れるう…。

先ほどの精液の味がして…っ、もっと舐めたくなってしまいます…っ。

れるれろお、れるれろお…ああむ。

……んあ、ああ…フェラチオ、そんなに気持ちいいんですか？

れるっ、れろお…ん、ちゅうっ…カウパーが溢れてきて…す、すごい味になってきていますよ…？

……た、確かに、十分勃起しているかもしれません…こんなになっていたら…れるっ、れるちゅう、ちゅう…れるっ、んん…もっと、舐めたくなってしまいます…っ♪

ちゅぱあ、はあ、はあ…んあ、ああ…。

……え、ええ、そうですね…。

こんな…っ、男性器に直接舌を這わすだなんて、淫らな行為…れる、れるお…他のシスターが見たら、きっと発狂してしまうでしょう…っ。

れるっ、ちゅうっ…い、いけないことだとわかっているのです…っ、でも…（だから…）こんなにエッチで美味しいもの…れるれるお…舐めずにいられません…っ。

ちゅぼっ、んじゅっ、ちゅるるう…んん…っ。

お、おちんちん…っ、口の中でビクビクしてっ…んあっ、ちゅぼ…んちゅうう、で、出そう、なのですか…？

……ちゅぼっ、んじゅっ、ちゅちゅうう…だ、ダメですよ？ これから、あなたは…れるっ、んちゅう…私とセックスするのですから…んちゅ、れるっ、れるうう…まだ、出してはいけません…

ちゅぼっ、ちゅぼっ、んじゅっ、じゅるう…ちゅぼっちゅぼっ、ちゅちゅううう、ちゅぱあ…♪

はあ、はあ…名残惜しいですが…フェラチオは、このくらいにしておきましょうか…♪

せっかく高まってきたのなら、お口ではなく、私のお…

処女おまんこに、子種、出してほしいです…♪

……ふふ。ええ、もちろん、冗談なんかじゃありませんよ？

ほら、私のここ、見てください…。

んあ、はあ、はあ…ああ…。

愛液が溢れてきて…あ、んん…奥まで、こんなにトロトロになってしまいました…んあ、はあ、はあ…ああ…。

身体がうずいてしまって…ああっ、んっ…もう、セックスしたくてたまらなくなってるんです…っ。

……んっ…はあ、はあ…わかって、いただけましたか？

私、処女なのに…こんな風になってしまったのは、あなたのせいなんですよ…?
…ちゃんと責任、勃起おちんちんで取ってくれますよね?
……あ、んん…まだ、そんなことを言うのですね…だったら…

んあ、あああ…はあ、はあ…ん、ああ…。
……んっ、ふふっ、か、感じますか?
あああ、んっ、ん…愛液たっぷりのおまんこ、おちんちんに擦れて…や、ああ、んっ…い、
入れたくなってきませんか…?

……嘘、ですよね?
あ、ああっ…こんなに、おちんちん反応させて…や、ああっ、んっ…セックスしたいくせ
に、強がりばかり言って…。

あ、ああっ…あ、んんっ、はあ、はあ…。
おちんちん震えてつ…あ、んっ…ちゃんと、感じてるじゃないですか…んっ…。
あっ、あああっ…あ、んんっ…力チカチのおちんちんで、おまんこ擦るの…あ、ああっ、ん
っ…わ、私も、気持ちいいですっ…んあっ、ああっ…♪

こ、これだけでも、き、気持ちいいけど…つ、んっ、はあ、はあ…ああ、本当のセックスし
たら…きっと、これより気持ちいいから…つ。
んっ、ああっ…はあはあ…だから、ね…?

あ、あっ、ああっ…んあ、ああっ…はあ、はあ…。
ほら、ほら…エッチ、したくなってきますよね?
私の処女おまんこに入れたいって…あ、あああ…思ってるんじゃないですか?
せ、セックス…セックスしましよう…? あ、ああっ…あ、んんっ… 避妊なしのセック
ス、
生セックスう…っ♪

……んあっ、あっ、あああっ…はあ、はあ…。
…あ、ああ…ふふっ、やっと折れてくれましたね…?
ん、ああっ、う、…嬉しいです…やっと、私と同じ気持ちになってくれて…
…では、早速始めましょうか…私達の、初めてのエッチを…♪

……心配はいりませんよ? あなたに変わって、私が上で動いてあげますから…♪

んっ…あ、あああつ…

はあ、はあ…んっ、ああ…つ。

こ、これでもう…私のおまんこ、処女ではなくなってしまいました…♪

…んっ、あ、ああっ…勃起おちんちん、ますます中で膨らんでっ…んあ、ああっ…そ、そ
んなに、私の処女を奪ったのが嬉しいのですか…？

はあ、はあ…ああ、んっ…さっきまで、あんなことを言ってたくせに…あ、んっ…早速喜ぶ
なんて…はあ、はあ…

やっぱり、したかったんじゃないですかあ…おまんこと、生エッチ♪

…ふ、ふふっ…ちゃんと、わかっていますよ…？

優しいあなたのことだから…あ、ああっ、私のことを気にして…あ、んっ…我慢、してくれ
ていたのですよね…？

でも、もういいんです…これからは、性欲と欲望のまま…あんっ、んうっ…禁じられた
セックス、しましょうねえ…

あ、ああっ…あ、ああ…んっ、んん、はあ、はあ…あ、んん…っ。

こ、こんな感じで、いいでしようか…？

方法は淫呪の書で知ったのですが、んっ、ああっ…実際にするのは、は、初めてなので…
つ。

…あ、ああっ、ん、んっ…よ、よかったです…ああ、んっ…。

でしたらこのまま…あ、ああっ、あ、んっ…私の処女おまんこ、はあ、あ、んっ…いっぱい
い、楽しんでくださいね…♪

はあ、はあ…初めてなのに…んあっ、あん、ああっ…おまんこ、すっごく気持ちいい…あ、
んっ…あ、ああっ…。

おかしい、ですよね…？ シスターなのに…あ、ああっ…セックスをして、感じてしまう
なんて…つ。

んっ、ああっ、ああ…あ、あっ、ああっ…。

こ、これは、神への裏切り行為なのに…んあっ、ああ…はあ、はあ…。

でも、もっと、もっと…身体が勝手に、あ、んっ…おちんちんを、求めてしまう…つ。

…こんな、淫らな私のこと、あ、んんっ…はあ、はあ…嫌いになっちゃった…？

…あ、ああっ、ん、あ、ああ…な、慰めでも、そう言ってくれて、嬉しい…あ、んっ…

あ、ああっ、あ、ああっ…お、おちんちん、また大きくなつて…ひあつ、ああっ…深いところ当たるの…おっおおっ…んつ、あっ…き、気持ちいいっ…♪

はあ、はあ…んつ、おつ、お” おつ、あ、んつ、あああつ…。

…あなたも、感じてくれてるんですねっ？ んあ、あ、んんっ…う、嬉しいです…この快感を、共有できて…はあ、はあ…んつ、ああ…つ。

あ、お” つお” お” つ…す、すごいっ…ん” つ、お” つ、お” お” つ…お、おちんちん、気持ちいいっ…おっお” お” お…つ。

んんんう…ふえ！？ そ、そんなに、下品な声、出しちゃつてますか…？ んお” 、お” お…はあ、はあ…ぜ、全然、気づかなかつた…お” つ、ん、んおつ…。

で、でもっ…それもこれも、おつ、んんっ…おちんちんが、悪いん、だからあつ…んお” つ、おつ、んん…つ。

こ、こんな、気持ちよかつたら…んおつ、おおつ、出したくなくても…お” つ、お” おつ…下品な声、勝手に出ちゃうのぉ…つ、おお…つ

お” つお” おつ…せ、セックスって、すごいっ…こ、このままだと、本当におかしく…んお” つ、お、お” おつ…。

はあ、ああ…あん、はあ、はあ…あ、あなたも、そう、みたいですね…？

はあ、ああ…んんう、ああ…

限界が近いなら…おおつ、んんっ…我慢、しないでください…

んんう、ああ…んんう

…お” つ、んんっ…で、出そう、なんですか…？

い、いいですよ…そ、そのまま、中で射精してください…つ。

んお” つ、おつ、お” おつ…教えに背いた…お、んんっ…汚れたシスターおまんこに…な、中出しして、い、いいからあ…

んんんう、ああ…我慢なんて、絶対無理ですよ…？

あなたはもう、んう、私のことが大好きなんですからあ…んんう、おお好きな子のおまんこに、種付けしたくなっちゃうのは、男性の本能なんですから…あんこのまま、奥に…んう、注いでください…つ、はあ、ああ…んんう
出して…出して…お” つ、お” お…精液出してえつ…！

ん…ん” ん” つ…んお” つ、お” お” お…つ。

ん…あ、あああ…はあ、はあ…あ…あ、あああ…。

あ、ありがとうございます…いっぱい、おまんこに中出ししてくれましたね…♪
びゅーっ、びゅーって…あなたの子種が、どくどくうって、注ぎ込まれてるの…ん、はあ、
はあ…感じます…っ。

んっ、お、ああっ……はあ、はあ……。

それに…あ、んっ…あああ…っ。
すごい…おまんこの中から、こんなに溢れちゃうくらい出してくれて…嬉しいです…♪
おかげで…ああ、んっ…魔力も、一気に高まって、ああ…っ♪

これで…最後の望みを叶えられそう…♪ ふふ

■ トラック4 淫呪の書、孕ませの章

……私の目的、気になりますか？
それを教える前に…まずは、あなたを自由にしてあげますね…♪
んっ…さあ、これで動けるようになったはずですよ。

……困惑するのもわかります。
ですが…ここからは、あなたの協力が不可欠なんですね…。
私の、最後の望み…それは…。
思いっきり…あなたとセックスをしたい…っ。
…あなたの意思で、私を犯してほしいのです…っ。
…あなただって、本当は自分で動きたいと思っていたんじゃないですか…？
ほら、おちんちんもガチガチで…やる気に満ちているじゃありませんか。
今すぐにでも私をベッドに押し倒して、犯してしまってもいいのですよ…？

……まだ、決心がつきませんか？

私はシスターですが、女でもあります……。あまり待たされるのも、辛いんですよ…？

ですから…あなたをその気にさせてあげますね

んあ、ああ…はあ、んんっ…ほら、こうすれば、よく見えますよね…っ。

ここが、先ほどまであなたと繋がっていた、私のおまんこ…っ。はあ、はあ…。
ひくついて…あなたのおちんちんを欲しがってるの、わかりますか…？
……こんな、ベッドで、ま…股を広げるだなんて…はしたない姿を見せられて…っ、うふ
ふ。
何もしないつもりでは、ありませんよね？

もっと、自分の気持に正直になって…行動しても…ひやっ
んお“ っ…お“ っ、お“ お“ お“ おっ…！？

や、やっと…その気になってくれましたねっ…お“ っお“ おっ…！
しかもっ…んお“ っ、お“ お“ おっ…いきなり、奥まで一気に入れてくるなんて…ん
お“ おおっ、やっぱり、したかったんじゃないですかあ…
はあ、はあ…ん“ っ、お“ お“ おっ…これなら、もっと早く、あっ、んんっ…！ 入れてく
れてもよかったのにい…っ。

……はあ、はあ…んっ、お“ おっ！
わ、わかってますよ…おっ、んんっ…私に気を使ってくれていたんだよね…？
んおおっ、おっ、んんっ…性欲の塊のくせに…本当に、優しい人…おっ、んっ、おっおお
おっ…！

で、でも…もう、大丈夫ですからあ…おっお“ お“ お…私のことは気にせず…
お…んんっ！

好きなだけ、腰動かして…んおっお“ お“ お…シスターおまんこ、堪能してえ…

おっお“ お“ お…んあ…お“ お“ お…はあ、はあ…。
……こ、声なんて…んっ、お…お“ お“ お…もう、そんなこと、もう、どうだ…
い…っ。
いくら私が下品な声出しても…んお“ っ、お…お“ お…あなた以外、聞いてないし…
…っ。
んお…お“ お…そ、それ…本当に…本当は、私のエッチな声聞いて…ん“ っ、お“ お…
こ、興奮して…ん…？ はあ、はあ…ん…、ん“ ん…。
その証拠に…お、お…ん…ピストン、どんどん激しくなってきてるよ…？

ん…、はあ、はあ…正直に言って…お…お…ん…こうや…って…もっと近く
で、私の声…聞かせて…あげるのに…っ♪
……ん…お“ っ、お“ お“ お…お…お…
お“ っ、お“ っ、お“ お…お…お…

つ。

や、やっぱり、この声で、興奮しちゃってたんだ…？

お“ つ、お“ つ、お“ おつ…！

そ、そんなに好きならっ…んお“ つ、お“ お“ おつ…いっぱい聞かせてあげるからっ…お
つ、ん“ ん“ つ…もっと、私のこと犯してえっ…！

んお“ お“ おつ…せ、セックス、き“ 、気持ちいい“ つ…！

お“ つお“ つお“ おおおつ…おちんちんっ、激しく動いてっ…おつおおおつ…おまんこ犯
されるの、好きい…っ！

……だ、だからあ…つ、お“ つお“ つん“ んつ…もっと、深いところ当ててもい、いいよ
つ…

んっんんう、な、なに、これえっ…！ 一番奥っ…当たってるの、伝わってきて…んおお
つ、おおつ…こ、こんなの知らないのにっ…んお“ つ、お“ おおつ…！

で、でも…つ、おつ、んんつ…こ、これ、すきいっ…！

ああっ…先っぽが、私の奥…つ、赤ちゃんができちゃうとこ、おお
お“ つお“ つ、ん“ つ、お“ お“ おおつ…も、もっと、ほしい…つ！

はあ、はあ、んつ、お“ おつ…子宮、お、おちんちんで、い、いっぱいトントンしてえっ…！

……ま、また、深いところっ…んお“ おつ…奥に当てるの好きなんだっ…？

お“ う“ つ、ん“ んつ…う、うんっ…私も、好きい…っ♪

お、おまんこの中、かき回されるの…き、気持ちいいよおつ…おつ、お“ おおつ…ん
ん…！

……ね、ねえ、キスも、したい…つ。

き…気持ち良すぎてっ、い、イっちゃいそう…だから…つ、おつおおおつ、んんつ…キスし
ながら、イキたい…つ。

ね、ねえ、いいでしょ…？ おつおつおおおおつ…キス、キスしたい、キスしたい…つ。
いっぱいべろちゅーしながら、エッチしたら…絶対、もっと気持ちいいからっ…だ、だか
らもう…しちゃうね…？

んつ、はあ、はあ…お“ つ、お“ おおつ…んつ…ちゅ、ちゅうつ…んおつ、お“ おつ…れ
るつ、れるううつ、んじゅつ、れるれろお…っ♪

おっ、おっ、んんっ…こ、これ、すごく気持ちいい…っ！
んじゅる、じゅる、れるううつ、ん、ちゅうっ…満たされていく感じがして…おっ、んん
っ、れるつ、れろお…すき、すきい…っ♪
も、もっと…ちゅーして…んっ、ちゅ、ちゅ、れるうつ♪

んお“ っお“ おおっ…い、いいよおっ…こ、こんなに気持ちいいなんて…教えて禁止され
るのも、わかる気がするっ…れるつ、んじゅ、れるううつ…♪
こ、こんなの知ったら…れるつ、んんっ、おっお“ おっ…お互い、戻れなくなっちゃうね
…っ♪
で、でも、もういいから…っ、いっぱいいっぱい、エッチなべろちゅーしてえ…♪ して、
くださいい…っ♪

んお“ おっ、おっ、お“ お“ おっ…！
……い、イキそう、なのっ？
……んおおっ、おおっ…う、うん…っ！ こ、このまま、中で出してほしい…んちゅう
っ、れるつ、れるうつ、んじゅるうつ♪
あ、赤ちゃん、できちゃってもいいからあっ…思いっきり、れるつ、れるうつ、おまんこに
れろれるうつ…だ、出して…っ！
れるつ、れるうつ、出して…れるれるつ、んちゅううう、子種、子宮にして…、出して
え…っ！

……んっ、お“ っ、お“ っ、お“ お“ お“ おおおおお…！？
んっ…おっお“ お…ん“ んんん…っ

はあ…はあ…はあ…う、ああ…

……私も、一緒にイッちゃったあ…♪
キスしながら、中出しされるの…す、すごく、気持ちよかったです…♪
あ、ああ…こんなに中出しされたら…赤ちゃん、妊娠しちゃったかも…♪

……あ、んっ…孕ませたかもって聞いて、興奮しちゃった…？ また、おちんちん大きくなってるよ…？ それとも、まだしたいとか…。

……え、な、なんのこと…？
呪いはまだ、解けていませんよ…？
……あ。瞳の色は、その…あくまで、形だけじゃないでしょうか…

だって…そうじゃないと、私のおまんこ、まだ疼いて…んう、ムラムラしている説明がつきません…

はあ、ああ……なので、私の呪いは、まだ解けていないんです……ふふ
だからあ、おまんこと生セックス、もっとしましょうねえ…♪

んあつ、あつああつ…あ、んつ、あああつ、あつ…んつ、ああつ…♪

……ふふっ…こんな身体を密着させていたら、逃げられるわけないじゃないですか…♪
あつ、んんつ…んおつ、おおおつ…♪

でも、本当は逃げようなんて思ってない、ですよね…？ あつ、ああつ、んんつ…♪
やろうと思えば、簡単に振りほどけるのに…あ、ああつ、んんつ…そうしないのは…あなたもセックスしたいから…っ、そうだよね…？

……んおつ、お”つ、お”おおつ！？

私の予想、当たってたみたい…♪ んおつお”おつ、お”おつ…。

み…認めた途端、こんなに突き上げてくるなんて…っ、んお”おつ、お”つ、んん…つ、本当に、獣みたい、ですねっ…おつ、んんつ♪

で、でも、私は好きですよ…っ、欲望たっぷりに、腰突き上げてくるの…っ、んつ、お”つ、
お”つ、だ、大好きいっ…♪

だ、だからあ…も、もっと、もっとしてえっ…♪

はむ。

んはっ！

ま、またっ…き、い、きそうっ…！ おつ、んんつ…お、お願いっ…このまま、また、中に
出してっ…お”つお”つ、ん”んつ…！

あ、あなた精子っ…出してっ、出してえっ…！

はむ。

んお”つ！？ おつお”おつ、お”つ、お”おつ…！

はあ、はあ…んおつ、おおおつ…まだ、こんなに出るなんて…お、おお…す、すごい…♪

で、でもお…はあ、はあ…もっと、もっと、セックスしたいなあ…♪

んんっ、も、もう一回しよ？ ね、いいよね…？

んんう、あん、あっああ…ふあああ、あああ
おちんちん、気持ち良い…はあ、ああ…れろお、んれるう、れるれるう、れるろお
耳を舐めると、もっと…あん、悦んでくれて…ああ、
お“っ、お“おっ、んんっ…
もう、何回も出してるのに、勃起しっぱなしで…き、気持ち良すぎるよお…っ
んおつおおつ、おおつ…こんな、いっぱいピストンしてくれてえ…んっ、おおっ…し、幸せ
え…♪
はあ、ああ…んう、ああ…

あむ。

んはあ。

……んっ、んんっ、べ、別に、理由なんて…私はただ、何回もセックスしたいだけ…んお“
っ、お“おっ！？

う、嘘…本当は…ここから出たら、おっ、んんっ…もうできなくなっちゃう、からあっ…！

…だから…後悔しないように、たっぷり、しておきたいのっ…あ、あなたも、わかってくれ
るでしょ…？

……おっ、んんっ、よ、よかったです…♪

だったら…最後までちゃんと、してくれるよね…？

あむ。

んちゅ。

はあ、ああ…んんう、んあ、おつおお、ああ…はあ、はあ…

ね、ねえ…これで最後、最後にするからあ…また、べろちゅーしながら、エッチ、しよ…
っ？

……んんんんう、あんっ、ふあつああ…んちゅうう
んちゅ、れるっ、れるっ、れろおっ…♪
あ、ああ…しゅきっ、しゅきっ…れるっ、れるううっ、れろっ、れるうっ…しゅきなの
おつ…♪

れるっ、んっ、んんっ…しゅきっ、れるっ…しゅきっ、んおっ、れるう…しゅーきいいつ
♪

んんんううう……んお“ っ、お“ おおっ…！？
んっ、んん…っ、んちゅううう……ふお…っ、んんう
んちゅう……ふーっ、ふーっ、れるれるう、んちゅっ、ちゅるう…れるれる…れるちゅう
う……っ、ちゅぱあ…っ

はあ、はあ……ああ……お、はあ……ふああ…

な、中出し…ありがとうございます…っ、何回も、濃いのを注いでくれて…あ、んっ…と、
とっても、幸せえ……♪

……あ、は、はい。理由は分かりませんが、呪いは完全に解けたみたいです。
ということは、外にも出られるはずですが…できればその、もう少しだけ、このままでも
いいでしょうか…？

まだ、エッチの余韻を……あなたのちんちん、中で感じてたいから…。
はあ、ああ……。ふふ

もちろん分かっているとは思いますけど、今日のことは、お互いに秘密…ですからね？
こんなやらしいこと、神様にだって、内緒です……
……ん、ちゅ。ふふ

■トラック5 エピローグ

こ、こんばんは…。
申し訳ありません、こんな夜更けに…。

……あ。私のこと、心配してくださるのですね。
確かに、勝手に修道院を抜け出すのは、罰の対象ではあります…ただ、どうしても先日
のことを謝りたくて…。

そのっ…あの時は、本当に申し訳ありませんでした…っ。
淫呪の書の効果とは言え、あなたに、あ、あんな、淫らな行為をしてしまって…。
……許していただけるとは思っていませんが、これだけは、お伝えておかねばと思いまして

…。

……えっと、用件はこれだけですが…

その…実は…お聞きたいことがあります…。

あなたは、あれから…どう夜を過ごしていましたか…？

……何を聞こうとしているのか、わかります？

私が呪われる前、性のお悩みを懺悔されていましたよね？ おちんちんシコシコお…って。

我慢できず、何回もしてしまう、と。

私とのセックスを思い出しながら…毎日のようにオナニーしていたのではありませんか…？

……ふふっ、そのくらいお見通しです♪

…だって…私も、同じでしたから。

あれから私は、セックスを思い出しながら…こっそり、自慰行為をしてしまいました…それこそ、一日に何回も…っ。

罪深い行為だとわかっていても、やめられなくて…私は、あなたと同じオナニー狂いになってしまったのです…。

けれど、自慰だけでは私の心は満たされませんでした…。

それはたぶん、あなたも同じではないですか…？

本物のおまんこを思い出して、オナニーしても…ん、ああ…何か物足りなくて…。

また、あんなセックスをしたいって…そう思っていたんじゃありませんか…？

……私は、したいですよ。また、互いの性欲をぶつけ合うような、激しいセックス…♪

……ふふっ、身体は正直ですね？

では早速、勃起おちんちんをズボンから出してあげましょうか…♪

ん…んあ、あ、あああっ…♪

はあ、はあ…あ、んん…相変わらず、たくましいおちんちん…♪

もうこんなに大きくしてくれて…嬉しいです♪

それに…ん、あああっ…っ、すごく熱くて…はあ、はあ…この感触、ずっと恋しかった…っ♪

……あっ、あなたも、私の手が恋しかったみたいですね？
それとも…こうして囁かれるのがよかったです…？
ん、ああ…そういえば、おちんちん刺激されながら、耳を舐められるのも…好きでしたよね？
では、早速…んあ、あああ…。
んあ、ああ…れる、ん、れるう…んちゅ、れる、れるお…んじゅるっ、れるう、れるっ、れるお…ああ、んんっ…
ふふっ…早速、おちんちん跳ねさせて…悦んでくれて、嬉しいです…♪

あむ。
んちゅ。

おちんちん…すごく膨らんできていますよ…？
やっぱり、耳舐められながら…擦られるの、好きなんですね…？
いいですよ…？ 好きなだけ、味わってください…♪

あむ。
んちゅ。

……んあ、はあ、はあ…ふふ。いえ、私は呪われてなどいませんよ？
…ほら、この瞳を見れば、わかりますよね…？
……それでもまだ、納得できませんか？

じ、じゃあ、恥ずかしいですが…あなたには全部…教えますね？

ん…ああ…呪いなんか関係ありません…。
私は、自分の意思でこうしているんです…れるっ、れるっ、ん…んちゅうっ。
私は性欲に負けて、あなたの家に押しかけてしまうような、ふしだらな女なんです…っ。
この前だって…れるっ、んう、ああ…呪いが解除されてからも、欲望のままにセックスを続けてしまいましたし…。
んっ、はあ、はあ…ああ、れるっ、ちゅ…れるれるお…はあ、はあ…。

これで、わかりましたか…？ 私が、清らかなシスターなんかじゃないってこと…んあ、ああ…はあ、はあ…。
私はシスター失格で…今だって、この勃起おちんちん、おまんこで食べちゃいたいんです

…はあ、はあ…んつ、ああ…。

ね…お、お願ひしますっ…セックス、しましよう…？

また、あの時みたいな、激しい交尾がしたいんですっ…はあ、はあ…こんなに勃起させてるんですから…いいですよね…？

つ、んあ、ああつ…あつ、んつ、あああつ、はあ、はあ…。

……ふふっ、許可を貰う前に、入れちゃいました…♪

でも、抵抗しなかったのは…そういうことでいいんですよね？

んつ…あ、あああ…あ、んんつ…はあ、はあ…。

あなたは座ったまま、動かなくていいですから…はあ、はあ…あ、ああつ…このまま、久々に、シスターおまんこ…味わってください♪

んつ、ああつ…久々のおちんちんっ…すごく、気持ちいいっ…これが、ずっと欲しかったの…つ。

このたくましいおちんちんで、おまんこ擦るの、好きい…あつ、あああつ…

こんなの、絶対にオナニーなんかじゃ、味わえない…つ、ひあつ、あ、ああつ。

……んぐっ、んあつ、ああつ…！ お、おちんちんっ、深いところまできてっ…き、気持ちいい…つ、あ、ああ…つ。

……んあつ、あつ、ああ…っ！ あ、あなたも、腰を動かすなんて…つ、やつ、ああつ…やっと…本気になってくれたんですね…んつ、ああつ！

い、いいですよっ…？ あなたも、私と一緒に…気持ちよくなりましょう…つ？

あむ。

んはあ。

んつ、ああつ…んつ…おつ、おおおつ…こ、これ、ぎもじいいっ…

や、やっぱり…セックスって…んおつ、おおつ…さ、最高…っ♪

あ、あなたも、そう思うでしょう…？ んおつ、お“おつ…はあ、はあ、んんつ…！

……つ、そ、それはっ…わ、わかつてるつ…こんなことをするのは、シスター失格だって…んつ、おつ、おおおつ…！

でも…どうしても、この気持ちは…っ、んおっ、おっ、おおっ…んっ、はあ、はあ…あなたと、繋がりたいっていう気持ちだけは、もうどうしても止められないのぉ…っ、やっ、んっ…おっ、お”おおっ…！

はむ。

んはあ。

はあ、ああ…誰でもいいってわけじゃない…

あなた以外とするセックスなんて、考えられないの…っ、んっ、ああっ…
私は、あなただから…あなたがいいから…セックス、してるんです…っ
んっんう、あん、ふあっああ…

はむ。

んはあ。

…はあ、はあ…ま、まだ、私の気持ちに気づいてくれないの…？ んっ、んおっ、おおっ…なんて、そんなこと…言わないとわからないよね…。

んっ…んあっ、ああっ…おっ、おおっ、んんっ…！ はあ、はあ…

わ、私…っ、好き、なの…あなたのこと…ずっと、前から…っ！

んっんう、ああ…ふふっ、そっか…今まで、気づかれなかったということは…あっ、あ…私、それなりにシスターできてたのかな…んっ、んっ、あああっ…。

…う、うん…私が、この気持ちを隠してたのは…んっ、はあ、はあ…修道院の教えに、従っていたから…んあっ、あああっ…。

本当は、最後まで隠し通すつもりだったけど…あ、ああ…段々と、耐えられなくなって…そんなときに見つけたのが…淫呪の書…んっ、んんっ…。

淫呪の書は、私の欲求を膨らませて…んっ、ああ…正直にさせてくれた…っ、だから、私はあのとき、魔法であなたしか入れないようにしてたの…んあっ、おっ、んんっ…！

…そ、そう…ずっと前から、あなたとこうしたかったけど…っ、んくっ、んおっ、おおっ…私はシスターだから…っ、教えに逆らえなくて…っ、んおおっ、おお…っ。

でも、それももう、終わり…んっ、ああ…嘘は、ヤメにするね…？

私は、あなたが好き…好き、好き…大好き…っ。

すき…すき、すき…すき、すき、すき…あなたが好きなの…っ。

はむ。

んはあ。

……んくっ、んっ、あああ…っ、んっ、はあ、はあ…え……本当…？
し…信じられない…両思いだったなんて…♪

あっ、ああっ、ああっ…あああ、そっか…やっとわかった…んっ…あのとき、催淫魔法があんまり効かなかったのは、そういうことだったんだ…。

……え、えっと…あの魔法は、私を好きな相手には効かないらしくて…あ、ああ…どうして、気づかなかったんだろう…んっ、ああっ…。

け、けど…あ、んっ…今はもう、そんなこと、どうでもいい…っ、あなたと、同じ気持ちってだけで…あ、あああっ、んっ…すごく、嬉しいから…っ。

はむ。

んはあ。

はあ、ああ…んっんう、ああ……好き、大好きい……んっんう、あん、ああ…

ほんと、だよ？　あの時に告白しなかったのは、淫呪の書のせいかもって、思われるでしょ…？　あ、ああっ…。

だ、だから…あ、んんっ…今夜、修道院を抜け出してきたの…っ
告白するかどうかは、けっこう迷ったけど…んくっ、あああ…おっ、おおっ…で、でも…
勇気を出して、よかったです…。

はあ、ああ…んっんう、ああ……あと、もう一つだけ、隠してたことがあって…
んっ、ああ……びっくりしちゃうかもだけど、実はね……はあ、ああ…あん
私のお腹の中、赤ちゃんがいるの

はあ、んう、ああ……うん、そうっ…あの時のセックスで、できちゃったみたい…♪

はあ、はあ…んっ、お…ああ、受け入れて…くれる？

んっんう、ああ…あんっ、お、おお……ふああ、嬉しい…

はあ、ああ……ありがとう。…好き、大好きだよ…っ

ちゅぱあ……はあ、ああ…好きい、んっんう、おお…っ、ああんっ

また、激しくっ…んんう、おっおお、あああ……精液、出そう…なの…っ？ はあ、はあ…んお”っ、おお”おっ…！

……う、うん…出して…いいよっ？ 出して、ほしいっ…！

でも、はあ、はあ…射精するなら、べろちゅーしながらあ…んっ…んちゅ、れるっ、れるお…んじゅ、んじゅっ、じゅぶっ…れるう…！

んおっ、お”っ、お”おお…れるっ、んつ、んんっ…！

やっぱり…これ、好きい…っ。はあ、ああ…舌絡めながらセックスするの、大好きい…っ！

♪

んっ、れるっ…好き、好き、好き、れるっ、んじゅっ、れるっ、れるう…好き、好き、好き、大好きい…！

んじゅるっ、じゅぶ、れるっ、れろおっ…はあ、はあ…あ、んんっ、れるっ、れるう…！

……んつ、んん…だ、出して…っ…出して、出して…っ、子宮にいっぱい、せーし出してええ…っ…！

……んんんうううつ、ちゅううう…おおお、ふあああ…っ！

ちゅぱあ…はあ、はあ…お

中、あつうい…っ、はあ、ああ…いっぱい出されて…あん、私も、イッちゃったあ…はあ、はあ…ああ

……え？ ふふっ、今さら…？

なんだか、自分でも気づかないうちに、口調が戻っちゃってたみたい…

でも、このほうが、昔に戻ったみたいでしょ…？

……思えば、私がシスターになってから、ずいぶんと時間が経っちゃったね…。

そのせいで、私は修道院に預けられたけど…今はこうして、あなたと繋がれて、本当に良かった…。

色々あったけど、赤ちゃんも、できちゃったし…

あ、そのこと…なんだけど。

呪いが解けた理由…私が、孕んじゃったから、みたい。

淫呪の書の力は、元々子作りをするためのものらしくて…。

あなたの子種、たくさん搾り取っちゃったから…うう。

ほ、ほんとに知らなかつたんだよ…？ 恋人になりたいなあとは思つてたけど、子供のことまでは考えてなくて…。

…でも、両想いで良かったなあ……。
こんな形になっちゃったけど、もし次があるなら……。

あの本がなくても、子作りエッチ…でしょうね?
……ふふ、約束
これからは、ずっと一緒に
今度こそ、離れ離れにならないように……ね。ふふ